

陳 情 文 書 表

(都市計画局)

受 理 番 号	1 8 5 8	受 理 年 月 日	令 和 3 年 9 月 2 8 日
件 名	地域まちづくり構想の見直し等		
要 旨	<p>京都府立植物園は、12,000種の多様な植物を保有し、東アジアトップクラスの観覧温室を有する生きた植物の博物館として発展を続け、憩いの場として広く府民に親しまれてきた。周囲は常緑樹の壁で囲まれ、散策する人に安らぎを与えるとともに、比叡山を借景としたバラ園からの眺望もすばらしいものがある。</p> <p>植物園が2024年に開園100周年を迎えることから、京都府は、植物が主役の植物園という理念を踏まえて府立植物園100周年未来構想を発表し、府民はこの未来構想に基づく植物園の整備をはじめ、文化環境ゾーンにふさわしい北山地区の整備を期待していた。</p> <p>ところが、京都府が2020年12月に策定した北山エリア整備基本計画では、植物園の周りに新たに出入口を造り、複合的な商業施設を誘致するとともに、芝生広場にイベントができる野外ステージを設置すること等が盛り込まれている。また、府立総合資料館跡地には文化施設だけでなく、コンベンション（企業などが開催する会議など）、宿泊、飲食などを含む様々な施設を建設、ビジネスイベント（MICE）を促進し、地域の活性化を目指すと記されている。さらには植物園の南側にある府立大学の敷地内に、1万人規模のアリーナ（イベント会場）を建設するという、前代未聞の計画も検討されている。これを受けて、京都市では、北山文化・交流拠点地区を、17番目の地域まちづくり構想として策定した。</p> <p>市民は、こうした北山エリア整備基本計画及び地域まちづくり構想によって、植物園が縮小、公園化され、植物の博物館としての機能が果たせなくなるのではないかという危惧や、府の所有地を民間企業のもうけのために差し出すこの計画で失敗すれば、市民にツケが回されるのではないかという危惧を抱いている。また、具体的で正確な情報提供が不十分であり、市民の意見や疑問をしっかりと聞く説明会を開催する必要がある。</p> <p>ついては、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 京都市策定の地域まちづくり構想の抜本的な見直し。 2 植物園を中心とする北山エリアの環境と景観の保全に取り組むこと。 3 正確な情報開示の下、早急に説明会を持つこと。 		
陳 情 者			
回付委員会	まちづくり委員会		